

100-182

問題文

58歳男性。既往歴なし。息切れ、胸痛等の自覚症状はなかったが、健康診断の胸部レントゲン検査で、心拡大を指摘されたため、近医を受診した。

心臓超音波検査で壁厚の異常は見られなかったが、心内腔が拡大し、全周性に壁運動が低下していた。血圧138/82mmHg、脈拍数72/分、心電図上異常なし。腎機能、肝機能異常なし。血漿BNP値は78pg/mLで軽度上昇していた。

本症例に対する第一選択薬として、薬剤師が推奨すべき薬物はどれか。2つ選べ。

1. アミオダロン塩酸塩
2. ドブタミン塩酸塩
3. エナラプリルマレイン酸塩
4. ピモベンダン
5. ビソプロロール fumarate 塩

解答

3, 5

解説

本症例の男性は慢性心不全疑い、少し高血圧気味です。これをふまえ、各選択肢を検討します。

選択肢 1 ですが

アミオダロンは、抗不整脈薬です。（重度に対して用いることが多い）本症例に推奨すべきではないと考えられます。

選択肢 2 ですが

ドブタミンは、 β 刺激薬です。疲れている心臓を、余計に疲れさせてしまう薬剤です。本症例に推奨すべきではないと考えられます。

選択肢 3 は、正しい選択肢です。

エナラプリルマレイン酸は、ACE 阻害薬です。慢性心不全（軽症～中程度）に用いられる第一選択薬の一つです。

選択肢 4 ですが

ピモベンダンは強心薬です。慢性心不全ガイドラインによれば、無症候性の段階では推奨すべきではないと考えられます。

選択肢 5 は、正しい選択肢です。

ビソプロロールは、 β 遮断薬です。慢性心不全ガイドラインによれば、無症候の段階から使用されることが推奨されています。

以上より、正解は 3,5 です。